

# 平成23年度 病害虫発生予察情報

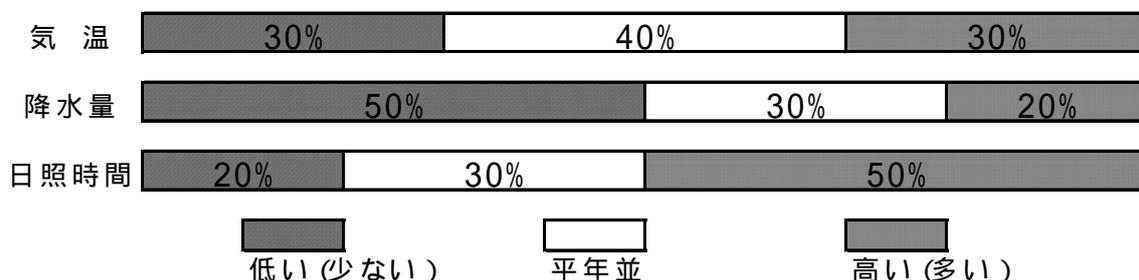
## 発生予報 第1号 (4月)

平成23年4月5日  
島根県

### 予報の概要

区分	農作物名	病害虫名	予想発生量
普通作物	ムギ	さび病類	平年並～やや多い
		赤かび病	平年並
		うどんこ病	平年並
果樹	イネ	休ミゾウムシ	やや多い
	ナシ	黒斑病	少ない
野菜	タマネギ	ハダニ類	少ない
		ボトリブ属菌による葉枯れ	少ない
		白色疫病	やや少ない
	イチゴ	べと病	やや少ない
		腐敗病・軟腐病	やや少ない
		灰色かび病	平年並
		アブラムシ類	平年並

中国地方1か月予報(4月2日～5月1日・広島地方気象台4月2日発表)  
< 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%) >



### A. 普通作物

#### 1) ムギ

##### (1) さび病類

###### 予報内容

発生地方 県内全域  
発生時期 平年並  
発生量 平年並～やや多い

###### 予報の根拠

現在、発生を認めていない(過去10年のうち、3月末の発生は平成20年のみ)。  
ムギの生育はほぼ平年並みである。  
4月の気象は本病の発生にやや助長的である。

##### (2) 赤かび病

###### 予報内容

発生地方 県内全域  
発生量 平年並

###### 予報の根拠

ムギの生育はほぼ平年並みである。  
4月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

##### (3) うどんこ病

###### 予報内容

発生地方 県内全域  
発生量 平年並

予報の根拠

現在、発生を認めていない（平成4年以降、3月末の発生は未確認）。  
ムギの生育はほぼ平年並みである。  
4月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

2) イネ

(1) イネミズゾウムシ

予報内容

発生地方 県内全域  
発生時期 平年並  
発生量 やや多い

予報の根拠

前年の新成虫発生量は平年に比べてやや多く（平年比163%）、本年の越冬量は  
やや多いと考えられる。  
4月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容

発生地方 県内二十世紀栽培地帯  
発生時期 平年並  
発生量 少ない

予報の根拠

前年の発生量は平年に比べて少ない。  
ナシの生育進度は平年並みである。  
4月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

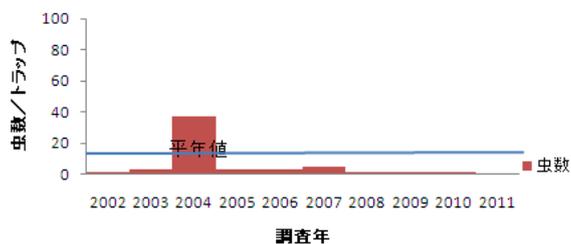
(2) ハダニ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯  
発生量 少ない

予報の根拠

誘殺バンドによる越冬調査ではカンザワハダニの発生圃率は14.3%（平年42.5%）、  
平均越冬虫数は0.1頭/バンド（平年11.7頭/バンド）と平年に比べて少ない。  
4月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。



バンドトラップにおけるハダニ類越冬虫の捕獲数の推移

C. 野菜

1) タマネギ

(1) ボトリチス属菌による葉枯れ

予報内容

発生地方 県内全域  
発生量 少ない

予報の根拠

3月下旬の巡回調査で発生は確認されていない( 平年発病株率0.02% )。

4月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

( 2 ) 白色疫病

予報内容

発生地方 県内全域  
発生量 やや少ない

予報の根拠

3月下旬の発生量は、発生圃場率は30.0% ( 平年31.6% )、発病株率は0.4% ( 平年1.1% ) とほぼ平年並みである。

4月の気象は本病の発生にやや抑制的である。

( 3 ) ベと病

予報内容

発生地方 県内全域  
発生量 やや少ない

予報の根拠

3月下旬の越年罹病株の発生量は、発生圃場率は10.0% ( 平年21.2% )、1万本当たりの発病株数は1.3本 ( 平年3.5本 ) とやや少ない。

4月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

( 4 ) 腐敗病・軟腐病

予報内容

発生地方 県内全域  
発生量 やや少ない

予報の根拠

3月下旬の発生量は、発生圃場率が3.3% ( 平年29.4% )、発病株率は0.1% ( 平年0.5% ) と平年に比べてやや少ない。

4月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

2 ) イチゴ

( 1 ) 灰色かび病

予報内容

発生地方 県内全域  
発生量 平年並

予報の根拠

3月下旬の発生量は、発病葉率が0.6% ( 平年0.3% )、発病果梗率は0.2% ( 平年0.1% ) と平年に比べてやや多い。

4月の気象は本病の発生にやや抑制的である。

( 2 ) アブラムシ類 ( ワタアブラムシなど )

予報内容

発生地方 県内全域  
発生量 平年並み

予報の根拠

3月下旬の発生量は、発生圃場率が25.0% ( 平年16.5% )、寄生株率は2.5% ( 平年3.4% ) とほぼ平年並みである。

4月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

【参考となる事項】

1) 用語の基準と使用法

(1) 平年値

病害虫の発生時期、発生量は過去10年の平均とします。

(2) 平年値との比較

発生時期：平年値からの差を5段階で評価します。

早い	やや早い	平年並	やや遅い	遅い
6日以上早い	3～5日早い	平年値を中心として 前後2日以内	3～5日遅い	6日以上遅い

発生量：発生密度や発生面積の平年値からの差を5段階で評価します。

少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
外側10%の入る幅	外側20%の入る幅	平年値を中心として 40%の度数の入る幅	外側20%の入る幅	外側10%の入る幅

2) 病害虫防除所ホームページには、予察情報のほか、技術情報や各種のグラフ、写真を掲載しています。

防除所のアドレスは <http://www.pref.shimane.lg.jp/nogyogijutsu/byougaityuu/>  
(農業技術センターのアドレスは <http://www.pref.shimane.lg.jp/nogyogijutsu/>)

3) 最新の農薬登録状況

独立行政法人 農林水産消費安全技術センターホームページには、農薬の登録や失効に関する情報、農薬登録情報検索システムなどが掲載されています。

農林水産消費安全技術センターのアドレスは <http://www.acis.famic.go.jp>

農薬の安全使用の徹底を！

- ・ 農薬の使用基準（適用作物、使用量又は濃度、使用時期、総使用回数）を遵守する。
- ・ 防除履歴（使用日時と場所、作物名、農薬の種類と量）を記帳する。
- ・ 農薬散布時には周辺作物に飛散（ドリフト）しないように注意する。
- ・ 水田で使用する農薬の止水期間を守る。
- ・ 有効期限切れ農薬は使用しない。
- ・ 散布後は散布器具の洗浄を徹底し、空き容器は正しく処理する。
- ・ 病害虫の発生状況を把握し、必要最小限の農薬使用に努める。

島根県病害虫防除所  
(島根県農業技術センター 資源環境研究部 病虫グループ)  
〒693-0035 出雲市芦渡町2440  
TEL 0853-22-6772  
FAX 0853-24-3342  
e-mail nougi@pref.shimane.lg.jp